

## コロンビア大学との研究交流

2011年3月9日付けで、奈良文化財研究所は米国ニューヨーク市所在のコロンビア大学中世日本研究所（バーバラ・ルーシュ所長）および建築・計画・保存大学院（マーク・ウィグリー大学院長）と研究協力および交流に関する覚書を交わしました。その内容は、2011年4月1日から2016年3月31日までの5年間にわたり、①研究者の交流、②文化遺産の調査・研究、保存修復に関する学術活動の共同実施、シンポジウムの共同開催、③三者が関心を有する文化遺産の調査・研究、保存修復に関する情報の共有、学術資料の交換をおこなうものです。具体的な実施方法は別途協議としましたが、当面考えていることの一つは、奈文研から年間2名程度の研究員をコロンビア大学に派遣して、研究成果の公表や先方の研究者との議論をおこなうことです。

奈文研は、文化遺産およびその保存や整備に関し、国内はもとよりアジアを中心とする諸外国の物件を対象に大きな成果をあげてきました。しかし、そのことが広く国際的に評価されてきたかという点、必ずしもそうとは言い切れません。その理由の一つに、英語による国際的な情報発信が十分でなかったことがあるかと思えます。今回のコロンビア大学との研究交流では、奈文研の研究員が自らの成果を国際的に発信する端緒とするとともに、米国の研究者との議論を通じて、新たな研究の視点や方法を獲得することが期待されます。同時に、先方からも文化遺産に関する共同シンポジウムの開催など、積極的な働きかけが予想されます。これらを通じて「世界の奈文研」への足がかりができればと考えています。

（文化遺産部 小野 健吉）



中世日本研究所のあるコロンビア大学ケントホール